

お寺にある素敵なものを、発信していきたい

YUJ 2010年 春

平成22年4月8日発行（第5号）

ユジュ

「YUJ」とは「瑜伽」とも書き、サンスクリット語で、「結ぶ、繋ぐ」を意味します。

YUJを手にとった方とお寺が良い縁で結ばれますように。



訶利帝母尊像

四国遍路の大先達

二百七十九度の巡拝と

訶利帝母信仰

混乱の明治期をへんろ人として生きた中務茂平衛とはどのような人物だったのでしょうか。

中務 茂平衛

の成長を見守って下さる、子供と母親の守り神となられたのでした。

金倉寺は訶利帝母さまが日本で初めて出現した土地として古くから信仰を集め、享保初年（一七一六）には高松藩主の母君より堂舎を寄進されています。金倉寺中興第十二世の松田俊順師は、四国はもろろん日本中から祈念して頂く人々が集まる程の訶利帝母尊祈念の大行者であつたそうです。そんな俊順師より「訶利帝利生弘通の大行者なり」と讃えられた人が中務茂平衛さんでした。

訶利帝母さま 金倉寺本堂の西にある訶利帝堂。その訶利帝堂の中を覗くと訶利帝母さまの姿を描いた額が掲げられています。こちらは福中寛齋作となっており、この絵を寄贈したのは『四国霊験記 図会』著者の繁田空山と

八十二番根香寺の当時の住職青峰良尊であり、おそろくは明治中頃の作品であろうかと思われまふ。訶利帝母さまは別名鬼子母神ともいい、もともとは人の子を盗って食べてしまふ鬼でした。しかしお釈迦さまに諭されて過ちに気づき、子授や安産、また子供

の成長を見守って下さる、子供と母親の守り神となられたのでした。



公田俊順師尊影

へんろ人 茂平衛

茂平衛さんは弘下二年（一八四五）四月三十日、山口県周防国大島郡椋野村（山口県大島郡周防大島町椋野）に父次郎右衛門と母ヲフミの三男として生まれました。俗名は龜吉といひます。家は裕福な庄屋でした。

十四歳で父を亡くし、慶応二年（一八六六）二二歳で出奔。三月より四国巡拝を始めました。この年の八月に母も亡くしましたが自分勝手に飛び出して来た身、帰る訳にもいかずただ冥福を祈り巡拝に専念することしかできませんでした。明治十年（一八七七）三月五日、三十三才の時に金倉寺で松田俊順師に師事、観音経・般若心経・諸真言等を伝授されます。「茂平衛」という名もこの頃に頂いたようです。

翌年には富士山・大峯山・葛城山へと入峰修行、明治

十五年（一八八二）には西国三十三ヶ所を三度巡拝するなど、僧侶としての修行を行いながらも四国巡拝にも没頭し、この年までに六十四度の巡拝をされました。明治十六年には遍路道案内書『四国霊場略縁起・道中記大成』を出版します。明治十九年（一八八六）四十二歳になった茂平衛さんは厄払いと四国巡拝「しるべ石」の建立を計画します。現存しているものは阿波（徳島）五基、土佐（高知）一基、伊予（愛媛）三基、讃岐九基の計十九基です。讃岐が最も多くなつたのは、意識的に師僧寺である金倉寺周辺に多く建てた結果でしょう。

その後も茂平衛さんの四国巡拝は衰えることなく、明治二十一年（一八八八）には四国巡拝百度目を記念して、再び二十八基のしるべ石を建立しています。明治二十四年、茂平衛さん四十七歳の時、大本山聖護院より度牒を賜りました。この度牒とは出家得度した証明書であり、茂平衛さんは「義教」という法名を賜りました。これ以後しるべ石にも「中務茂平衛義教」という名がみられるようになります。

茂平衛さんは二十二歳より足掛け五十五年、七十七歳になり二百七十九度に達していました。四国巡拝を記念して建立されたしるべ石は現在確認されるもので二百三十七基を数えます。その翌年の大正十一年（一九二二）二月二十三日、大窪寺へと向かう道中、信者であった久保ちか子宅にて息を引き取りました。

しるべ石

そのために交通も発達し、あります。

新道の開通も盛んに行われ、旧道との交差点では道しるべの設置が必要とされました。茂平衛さんのしるべ石百二十一度記念のしるべ石が目に飛び込んできます。このしるべ石には次のような歌も添えられています。

茂平衛さんが建立したしるべ石は、四国巡拝八十八度目を記念して建立された十九基（現存）を始めに、

真如の月

かがやくや 法の道

茂平衛さんが生きた明治期は慌ただしい時代でありました。西洋文明を目の当たりにした日本は、西洋化を目指し積極的に文化を吸収し富国強兵を行いました。辺で確認できるものは三基の道」、すなわち仏法であ



しるべ石（金倉寺門前）

る、という意味です。この歌は「法の道」である遍路道が「真如の月」である真実の智慧、すなわち涅槃の道場である讃岐の国へと続いていく様子を詠んでいるのでしよう。

この歌を詠んだのは俊順師の弟子であり茂平衛さんの弟子であった俊因です。このしるべ石のように俊因が詠んだ歌が刻まれたしるべ石は他にも数十基あります。

参拝も終えて次の道隆寺へ。金倉寺から道隆寺へ向かうには山門ではなく西の駐車場より脱けるのが近道です。すると金倉寺駐車場出入口の脇にひっそりと佇む小さなしるべ石。明治十九年建立の四国巡拝八十八度記念、つまり初めて建立された十九基のうちの一基です。

このしるべ石には「中司茂平衛」の文字が見えます。茂平衛さんの生家は「中司家」であり、本来は「中司茂

平衛」と書くべきなのですが、どういふ訳か四国では「中務」の姓を用いることが多かったようです。度牒にも「中務義教」とあることから、僧としては「中務」の姓を用いたのかも知れません。

このしるべ石は他と比べても小さいため気づきにくいかも知れませんが、注意深く探してみてもいい。

道隆寺へは駐車場から北へ進路をとります。すぐに三叉路に突き当たり、さど

どちらが道隆寺でしょうか。右手に郵便局、左手にはしるべ石があります。明治二十三年九月建立の四国巡拝百十五度記念というこのしるべ石によると、今きた道を戻るように指示されています。実はこのしるべ石、最近まで倒れていたのですが、近年有志の方々の手によって立て直されました。しかし、その時に方角まで気をつけていなかったようでした。

を指し示す不本意な形となりました(笑)

茂平衛さんがしるべ石を建立してからおよそ百年、現在では「四国のみち」や道路標識を始め、有志の方々による遍路道の案内などができ、茂平衛さんのしるべ石は本来の役目を終え、遍路の風景になりつつあるようです。しかし茂平衛さんが四国遍路の途次に刻みつけたしるべ石は、これからもお遍路さんを見守り続けることでしょう。



『遍路の大先達 中司茂平衛義教』
喜代吉榮徳 正林書院



『へんろ人列伝』
喜代吉榮徳 海王舎

中務茂平衛年表

弘化2年	一八四五	1才	4月30日 誕生。父次郎右衛門母オフミの三男、亀吉。
安政5年	一八五八	14才	9月20日 父次郎右衛門死去。オ、中功院釈教證道喜居士。
慶応2年	一八六六	22才	出走。3月より四国八十八ヶ所巡拝し始める。
明治10年	一八七七	33才	8月14日 母ヲフミ死去。清妙院釈教善真大師。
明治11年	一八七八	34才	3月5日 金倉寺松田俊順師に諸経真言を伝授さる。(6月以降) 伊予国大島巡拝。
明治15年	一八八二	38才	7月16日より富士山・大峯山・葛城山等入峰修行。
明治16年	一八八三	39才	4月3日より9月15日まで西国三十三所を三度巡拝。
明治19年	一八八六	42才	2月18日付の経本の接待を受ける(清水寺にて)。
明治21年	一八八八	44才	5月 高野山にて弘法大師御像を求め、四国64遍目。
明治22年	一八八九	45才	1月 『四国霊場略縁起・道中記大成』出版。前年の四国巡拝65度目記念。
明治23年	一八九〇	46才	八十八度目為供養としるべ石の建立。
明治24年	一八九一	47才	四国巡拝百度目のしるべ石建立。
明治28年	一八九五	51才	2月 11度目。納経帳を新調。釈俊因より宝印簿小言をもらう。
明治31年	一八九八	54才	9月25日 四国巡拝12度目に達する。
明治36年	一九〇三	59才	10月20日 聖護院より度牒を受く。
明治42年	一九〇九	65才	10月26日 持念祈祷免許。
明治43年	一九一〇	66才	9月 四国巡拝16度目。
明治45年	一九一二	68才	2月 四国巡拝16度目。
大正2年	一九一三	69才	10月 中司ムメ宛書簡。道後木下や村井マキチ方にて会う約束。
大正4年	一九一五	71才	3月 24度目。
大正7年	一九一八	74才	2月 愛媛県越智郡龜岡村役場より道知石建設についての手紙と地図。
大正8年	一九一九	75才	6月 八幡浜警察署より石工の始末書。
大正9年	一九二〇	76才	5月 259度目。88番大窪寺にて修行大師の軸を買う。
大正10年	一九二一	77才	2月までに51ヶ年、268度目。
大正11年	一九二二	78才	諸日記 正月元長、土佐国安芸郡津呂村第二十四番東寺にて奉祝候事 11月 278度目の標石(香川県白鳥町) 6月 279度目の標石二本建立。世話人国方長三郎・中村梅吉(白鳥町) 2月14日より久保ちか子方滞在。同23日遷化。



「煎茶道」と聞いて、「え、煎茶って作法あるの?」と思う方、多いと思います。何を隠そう私も、茶道と言えば茶筌でシヤカシヤカと、のお抹茶しか知りませんでした。そんな私が、なぜ煎茶道に興味を持ったのか。

そもそも、煎茶は江戸時代の僧により始められたと言われており、私の習っている「三井古流煎茶道」も、文化文政の頃、当寺の本山である園城寺(三井寺)において、壺井軒という長老が金堂に献茶をしたことが始まりだと言われています。その

ような由緒正しい煎茶が身近にあって、今まで知らずにいたとは。何ともお恥ずかしい話ですが、せっかく金倉寺に縁がある煎茶道なのだから、習つてみよう、あわよくば教えられるようになればいいな、と思ったのです。

といつても、お抹茶のように教室が近くにあるわけでもなく、本元の三井寺に相談したところ、月に1回三井寺に通つてお稽古をすれば、との快いお返事が。これは大変なことになったぞ、と思いながらも、月1回関西方面に遠出ができる、というちょっと不純な気持ちで通うこととなりました。

今回のお煎茶の話はこれくらいにして、第二回のお菓子レシピの紹介を。女性だと誰でも一度は作ったことのあるクッキー。素朴なさくさく感が楽しめます。ぜひお試しください。



パンプキンシードとオートミールクッキー

【準備】オーブンを180℃に温める／天板にベーキングペーパーを敷く【作り方】1. ボウルにショートニングを入れ、ホイッパーで柔らかくする。2. 砂糖を少しずつ加えながら混ぜる。3. 薄力粉とベーキングパウダーを振るいながら加える。4. パンプキンシードとオートミールを加えゴムべらでさっくりと均一に混ぜる。5. ひとつにまとめた生地を手でちぎり、ベーキングペーパーに間隔をあけてのせる。6. 上から手でつぶしてクッキー状にし余熱したオーブンで約15分焼く。7. 焼き上がったら天板ごと冷まし、粗熱がとれたら網に移して完全に冷ます。

【材料/約20個分】
パンプキンシード…20g、
オートミール…50g、全粒粉薄力粉…30g、ベーキングパウダー…小さじ1/2、
ショートニング…40g、砂糖…40g

石土入峰修行



山持権現山

今回の特集「中務茂平衛」はいかがでしたでしょうか。特集内で茂平衛さんが「富士山・大峯山・葛城山へと入峰修行」を行ったことについて触れていきます。これは日本古来の山岳信仰に始まり、役行者を開祖とする修験道に基づく修行です。特に大峯山・葛城山は役行者が修行を行った地であり、現在も修験道の修行場として「大峯奥駈道」の名で信仰されています。ここ四国の地で修験道の聖地と言え、愛媛県の「石

土山」です。現在では石鎚山として親しまれてるこの

霊山は、大峯山とともに日本七霊山の一つに数えられ七月一日〜十日の山開きでは毎年多くの信仰者の方々が参拝に訪れています。

金倉寺では毎年七月七日に石土山への入峰修行を行います。僧侶はもちろんのこと、毎年在家信者の方や檀家の皆さまにも御参加いただいています。もちろんこれまで参加されたことのない初めての方のご参加もお待ちしております。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

◎石土入峰修行

日時 七月七日(水)

七時金倉寺集合

定員 三十名まで

費用 一〇,〇〇〇円

お問い合わせは金倉寺本堂または電話(〇八七七ー六二一〇八四五)川端まで

金倉寺文庫

春、新しい季節の始まりですね。金倉寺文庫も大幅増刊を考えておりますが、今回はウェブサービスのお話をさせていただきます。

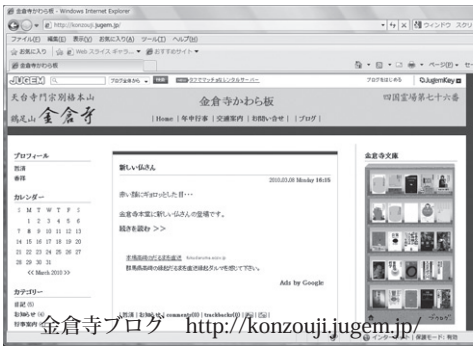
そのサービスとは「ブックログ (http://booklog.jp)」。ウェブ上に自分の

本棚を持つというコンセプトのサービスで、自分が持っている本の登録や管理、さらには本の感想をコメントすることもできます。もちろん他のユーザーのコメントを閲覧することもできますので、気になる本の評判を調べて購入の参考にすることもできます。

そしてこのサービス最大の特長が自分の本棚をウェブ上で公開できること。「本棚は性格を表す」ともいいますが、趣向の似た人の本棚からまた新しい本と出会えることもその魅力です。さて、どうしてYUJで「ブックログ」を取り上げた

のかといえますと、今回金倉寺文庫の本棚を作ってみました。このブックログサービスを使えばその場で「金倉寺文庫にどんな本があるのか」が確認でき、気になる本の評判を調べることもできます。アクセスは金倉寺ブログ右横のメニューからどうぞ。

本棚は現在鋭意登録中で、本のコメントもつけていきたいと思っておりますので、温かい目でお待ち下さると嬉しいです。皆様の金倉寺文庫のご利用お待ちしております。



お知らせ

嬉しいことにこの度、YUJの定期購読を申し込んで下さった方が二名もいらっしゃいました。YUJ制作者としてこれ程嬉しいことはありません。

しかしYUJは無料の情報誌なので代金はいただいておりません。金倉寺からの情報発信ですので、郵送希望の方からも代金をいただくことはありません。ただ行案内等を同封しますことをご了承下さい。

もしYUJの定期購読を希望される方は送付先と部数、できればご感想も(励みになります)明記して金倉寺までご連絡下さい。



た馬の像で代用するようになりました。

さらに時代が進むと、現代のように馬以外の絵が描かれたり、家内安全や商売繁昌といった具体的・個人的な願いが書かれるようになりました。今日のように個人が小さな絵馬を奉納する形は、江戸時代に庶民の願掛けの主流となったものだそうです。

「絵馬」といえば、神仏に祈願する、または願いが適ってお礼に奉納するもので、新年の祈願や入試合格祈願などでおなじみですね。その歴史は奈良時代にまでさかのぼるといわれています。『続日本紀』によると、神の乗り物としての馬、神馬を奉納していたとか。当時は、馬を献上するといった大がかりな祈願のため、都や地域の平安を願う共同体の祈願が中心となっていました。しかし、馬は高価

であること、また神社の側でも世話をするのが大変なため、馬を奉納できない者は次第に木や紙、土で作つ



「日本の神様」がよくわかる本
戸部民夫 PHP文庫

た馬の像で代用するようになりました。さらに時代が進むと、現代のように馬以外の絵が描かれたり、家内安全や商売繁昌といった具体的・個人的な願いが書かれるようになりました。今日のように個人が小さな絵馬を奉納する形は、江戸時代に庶民の願掛けの主流となったものだそうです。



その5. 円珍さん④

日経指帰』と題された著作です。

この書物は密教經典である『大日経』が『法華経』に劣らず優れていることを説いた著作です。しかしこの著作で円珍さんは驚くべきことを書いています。それは同じく空海さんが密教が優れていると説いた『秘密曼荼羅十住心論』に対して、「論となすに足らざるのみ」と批判していることです。

これまで密教と言えば空海さんの真言宗が一步も二歩もリードをしていました。そのため天台宗は新しい密教を生みだす必要がありました。その新しい密教が今空海さんと同じ佐伯の血を継ぐ円珍さんによって生みだそうとされているのでした。(次回に続く)



『人物叢書 円珍』
佐伯有清 吉川弘文館

■編集後記

哲済 桜の開花宣言がされたものの、なかなか満開にならず。YUJが発行される頃には満開かな。

香祥 暖かくなると、なかどこかに行きたくなるねえ。

哲済 去年は歩き遍路に出たもんね。お遍路さんを見ていると僕もついて行きたくなるわ。新しいことを始めたくもなるね。

香祥 今回から、「TERA DE CAFE」に少しづつ煎茶道について紹介をしてみようと思つてます。

哲済 僕は次のYUJの特集のアイデアを募集中です。

平成二十二年四月八日発行
編集・発行 金倉寺
発行人 村上法照
お問い合わせは
〒七六五-0031
香川県善通寺市金蔵寺町一六〇
TEL〇八七七一〇八四五
yuj@kagawa-konzouji.or.jp